

東洋大学福祉社会開発研究センター News Letter

2023_Vol.4

福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築

INDEX

- ◆ 外部評価委員会の結果 . . . 1
- ◆ 年度末シンポジウムの開催 . . . 2
- ◆ 出張の様子 . . . 3



外部評価委員会の結果

3月

12日に外部評価委員会が
開催されました。今年度も

昨年度と同様に、東洋大学社会学部の小澤
浩明先生、東北福祉大学総合福祉学部都
築光一先生に外部評価委員会をお願いして
おります。

都築先生からは、全体的に順調に研究活
動が進捗していると評価していただきまし
た。今後は、研究結果を、実践として具体
化していくための議論が必要であること、
それに関連して研究上の枠組みと現状の制
度的な枠組み（例えば、地域包括ケアや包
括的支援体制）の整理が必要であること、
が指摘されました。

小澤先生からは、「相互承認」の概念に
ついて、昨年度よりも議論が深まったとコ
メントをいただきました。一方で、「福祉

国家を、承認をベースとしながらも『配
分』の視点から再構築するという課題も同
時に考える必要があると感じた」といった
コメントもいただきました。加えて、

「テーマが『福祉社会における新たな価値
の創発と支援システムの構築』なので、こ
の『新たな価値』とは何であるのか、それ
は『相互承認』ということなのか、それと
も、それに限定されない別の価値なのかを
来年度は、是非、明示していただきたいと
考える」と大きな宿題もいただきました。

来年度は重点研究の最終年度ですが、外
部評価委員の先生方のご指摘を踏まえ、セ
ンター一丸となって、研究を推進してい
きたいと思います。



年度末シンポジウムの開催

3月9日、「理論的に『相互承認』を掘り下げる」をテーマに、年度末シンポジウムが開催されました。前期シンポジウムにて、各事例から『相互承認』について検討しましたが、そこからさらに掘り下げて4名の報告者から理論的・哲学的・臨床的に、『相互承認』という概念をどのように捉えられているのか報告がありました。

金子研究分担者からは、ロバート・オウエンの思想研究から「相互承認」の場として、オウエンが目指した多様性の間の対話によって構築する共同社会と、それが現代の社会にも通ずる部分があることを報告していただきました。

秋元研究分担者からは政策という観点から、個別ではなく地域住民を対象とした相互承認のあり方について話していただきました。地域住民は住民という仮面をかぶった個人であり、地域住民全体だけではなく、その中の個性を持った住民を想定することが求められ、その対象者の範囲や承認の枠組みをどう作るかの難しさも合わせて報告していただきました。

三重野研究分担者からは、哲学的な観点から承認がどのように論じられてきたのかを話していただきました。人間は共同体をつくる動物であり、そのカギとなるのが承認であることから、相互に自発的に自分の自由を制限するものとしての法の存在があり、それを守りながら共同体が形成されていくことを報告していただきました。

稲沢研究分担者から、臨床論的な視点から相互承認が成立するための「場」の重要性について話していただきました。援助が非対称的な関係性の中で行われることから臨床という場所での共同作業とし、述語的論理でつながる共通基盤があることで相互性が生まれること、そこを強調することで個別性を消去してしまうという問題点も合わせて報告していただきました。

報告後、コメンテーターである小林客員研究員と吉浦研究分担者からコメントをいただきました。小林客員研究員からはそれぞれの報告内容についての枠組みの整理と「承認」概念をどのレベルまで想定し、そこで排除されたものはどうなるのか、どのように一般化していくのか、という点から話していただきました。

吉浦研究分担者からは『臨床の立場からテーマを今一度考察する』ということで臨床的な視点から承認がどのように論じられてきたか、その中でも多重問題家族やアダルトチルドレンなどの依存性のあるケースを例に「承認」や「受容」をどのように捉えていくか、話していただきました。

「相互承認」という概念が、それぞれの学問領域でどのように捉えられ、実践の場においてはどのように理解されているのか。そして、どのように一般化し、それぞれの研究へと結び付けていけば良いか。限られた時間の中ではありましたが、考えさせられる議論も多く、有意義な時間となりました。





出張の様子（イタリア／村川 研究分担者、小泉 客員研究員）

イタリアでは、社会福祉へ対応する組織として主に社会的協同組合（cooperativa sociale）が地域において展開しています。このイタリア社会的協同組合は、日本でも注目されており、障害があるため働くことが難しい人、また元受刑者など社会的に働くことが難しい人への社会福祉サービス提供組織として先駆的な展開をしています。特に1970年代のフランコ・バザーリアらによる精神病院解体後、社会的協同組合は、地域において患者のための労働の場の創出、就労支援の役割を担っているとされます。今回の調査では、ロンバルディア州ミラノにある社会的協同組合エウレカ（A型）における高齢者に対する支援に加えて、エミリア・ロマーニャ州にある社会的協同組合コーパプス（B型）、社会協同組合コンフコペラティーベ（B型）の現場において、働きづらい人に対する、労働に結びつけるための支援についてヒアリングを行ってきました。

Cooperativa Sociale B Copaps(B型社会的協同組合コーパプス)では、精神障害者、知的障害者、社会で働くことが困難な人（元受刑者）に労働の場を提供しています。労働の内容は主に農業に従事し、畑（有機）において、野菜や草花を植え収穫し、食材や観賞用の花として、販売しています。

Cooperativa Sociale B Conf-Coop(B型社会的協同組合コンフコープ)では、精神障害者、知的障害者に労働の場や労働に必要な技術やコミュニケーションを提供しています。労働の内容は主に農業、工芸品の雑貨の制作で、作られた物は商品としてボローニャ中心部にあるレストランやブティックで販売をしているそうです。

視察を実施した社会的協同組合Bでは、障害者や労働することが困難な人に対して就労の場を提供し、労働とのつながり、社会とのつながりをつくる支援をしていました。また、これらの労働によって作られた商品は、市場価格において競争できるほどの質を確保できるようにしているそうです。商品販売で得た収益は、事業の継続や新規事業に使われます。また、商品が市場において、価値あるものとして認められ購入されることが、労働する人へのモチベーションになっているとのことでした。



事業所の方との集合写真



事業所の様子



出張の様子（インドネシア／古川 研究分担者）

インドネシアは、人口が多く、経済発展も目覚ましい。介護人材についても、今後、インドネシアからの来日者が増えることが予想されます。さらに、今後は、他のアジア諸国と同様に、高齢化が進展します。今回のインドネシア訪問では、今後の交流および協力の可能性を確認するために、POLTEKKES KEMENKES JAKARTA 3（国立健康科学大学 ジャカルタ3）と、日本語と介護の基礎知識を指導している日本語学校（LPK Bahana Inspirasi Muda）を訪問しました。高齢化への対応、介護予防など、様々な観点で、今後の交流および協力が期待できることを確認しました。

2月29日（木）

POLTEKKES KEMENKES JAKARTA 3（国立健康科学大学 ジャカルタ3）を訪問しました。当大学の教授に、インドネシアにおける社会福祉、高齢者福祉、リハビリテーションについてヒアリングを行いました。さらに、当大学の学生と教員を対象に、日本における自立支援介護について講義を行いました。高齢者福祉に関する意識の高い教員が多く、今後の交流について手ごたえを感じました。また、将来的には交流協定を結びたいという提案も受けました。

3月1日（金）

バンドン市内にある、来日予定のインドネシア人に、日本語と介護の基礎知識を指導している日本語学校（LPK Bahana Inspirasi Muda）を訪問しました。授業風景の視察とともに、当日本語学校の教員に、教育の現状と課題、日本の受け入れ施設に期待することなどについて、ヒアリングを行いました。



日本語学校の方たちとの集合写真



国立健康科学大学の先生方との集合写真



出張の様子（大阪／加山 研究分担者、大洞 客員研究員、RA2名）

3月15日、大洞客員研究員、丸山RA、奥西RAと加山の4人で八尾市・阪南市を訪問しました。目的は、両市における重層的支援体制整備事業についてのヒアリングです。地域に蔓延する他者への不寛容や社会的不承認について、本グループではこれまで問題意識を持ち続けてきました。折しも、同事業（以下、重層事業）が2021年度から市町村の任意事業としてスタートし、24年4月からは孤独・孤立対策推進法が施行されます。地域の課題をくまなく発見し、地域の実情に合った取り組み（社会資源の多寡・分布や公私協働による多彩な地域づくり）をより発展的・持続可能なものにするために後押しする点で、これらの政策は共通していると思います。重層事業を機に、社会福祉協議会（以下、社協）へのコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）の配置を促進する自治体が多いことも注目に値します。

八尾市の重層事業では以下のような特徴が見られました。①既存の部署を再編して「地域共生推進課」「つなげる支援室」を創設し、重層事業の司令塔としたこと。②庁内を横断する「福祉職等相談対応職員」制度の導入や多機関協働による「つながり会議」の実施により、包括的相談の受付を可能にしたこと。③府事業で民間配置していたCSWを改めて出張所ごとに配置し、アウトリーチ・伴走型支援の体制を整えたこと。④中小企業等の地域づくりと要支援者への参加支援を融合的に実施していること。⑤啓発活動を通じた地域づくり支援を進めていること。⑥社会福祉法人との協働により地域公益活動の基盤づくりを進めていること。⑦ICTの導入に向け、既存のシステムの拡張を検討していること。

阪南市では行政・社協にヒアリングしました。特徴として以下が挙げられます。①「くらし丸ごと相談室」や「庁内連携推進会議」の設置により、制度の狭間問題に対する包括的相談支援や多機関協働の機能を強化したこと。②サロン等を活用した「まちなかほっこり相談」によりアウトリーチ機能を充実させたこと。③地域包括支援センターに配置されたCSWに対して事業交付金で役割強化を図り、アウトリーチ・伴走型支援を拡張させたこと。④農業・漁業との連携や少年院のボランティア活動支援等を通じ、地域づくり支援と参加支援を一体的に進めていること。



八尾市役所

両市においては、縦割りの制度枠組みに捉われず、従来の実践（組織・人材や知見）をベースに、重層事業を契機的・財政的要因として活用しており、地域資源を広く巻き込んだ支援体制づくりが進められていました。中でも、ICTによる多主体間での情報共有については、まだ開発途上とのこととは言え、実装されているシステムの応用が模索されており、大きな可能性を有するものと期待できます。重層事業に過度に拠らずに包括的支援体制を構築しようとする考え方であり、事業の理念に叶った実践でした。



出張の様子（アメリカ／山本 研究分担者、洪 研究分担者、志村（敬）研究分担者）

地域福祉グループ山本研究分担者、洪研究分担者、志村（敬）研究分担者の3名が、ホームレス等の住宅困窮者に対する居住支援の在り様に関する新たな知見を得ることを目的として、2024年3月11日から13日にかけて、アメリカ・ニューヨーク市において視察および、行政機関職員・非営利団体職員に対するヒアリングをおこなってまいりました。

3月11日

翌日のヒアリングに向け、通訳兼コーディネーターの方と打ち合わせをおこない、ヒアリング内容の擦り合わせや、ニューヨーク市における住宅事情、ホームレスの人々の状況など社会情勢について情報を把握しました。午後は、NY市における公営住宅の状況について外から観察をおこないました。

3月12日

①ニューヨーク市ホームレス支援局（DHS）

午前中はニューヨーク市ホームレス支援局にて、路上生活者の状況、家族構成、心身状況に合わせたシェルターへの入居プロセス、自ら支援を求めない・求められない方々への継続的なアウトリーチ、活用されている支援システム等についてヒアリングをおこないました。

ニューヨーク市ホームレス支援局は、ホームレス状態の方へのアプローチは勿論のこと、ホームレス状態の予防や、ホームレス状態の方を恒久的な住居につなげることを目標に、非営利組織と協力しながら、様々な取り組みを積極的に展開しており、今回のヒアリングでその概要について理解を深めることができました。

②NPO法人Breaking Ground

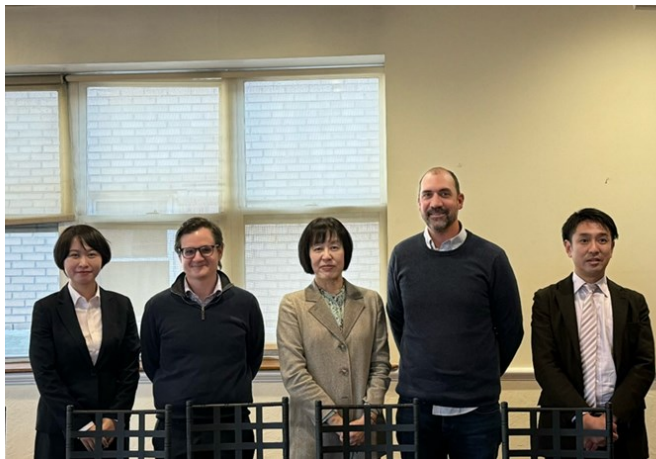
午後は、NPO法人Breaking Ground にて視察およびヒアリングをおこないました。Breaking Groundは1990年にロザンヌ・ハガティによって設立された非営利団体であり、ニューヨークにおいてホームレス状態の人々に対する居住支援を先駆的におこなってきた団体です。Breaking Groundは、かつて高級ホテルとされていたものの、1990年代に荒廃したTimes Square Hotelを改修し、そこにホームレスの方々にHousing First方式で住まいを提供しています。全米最大と言われる恒久的支援住宅「The Times Square」では、住まいの提供のみならず、定期的な安否確認、チームによる心身のケア、就労支援、本人のニーズに合った多様なプログラムへのコーディネート、入居者同士のコミュニティの形成など、多種多様な実践がなされていました。また、ホームレス支援において支援者間の円滑な情報共有・連携を実現するためのICTツールも活用されており、Breaking Groundが展開する総合的な実践は、日本のホームレス等への居住支援を考えるにあたり、非常に示唆に富んだ内容でした。



出張の様子（アメリカの続き）

3月13日

New York Public Library Hamilton Grange 図書館へ訪問のうえ、Speak with a Social Work Intern at NYPL 活動について、図書館の係員にヒアリングを実施しました。この活動は、大学でソーシャルワークを学ぶ学生が、実習としてホームレスの人びと（あるいは、ホームレスになる危険性のある人々）に対して、制度やサービスを紹介するものです。残念ながら、実際の場面を見ることは叶いませんでしたが、図書館という誰もが利用しやすい公共施設で、他にも英会話やPC教室、履歴書の作成サポートなど、単に図書の貸出にとどまらない市民の生活基盤を支えるための多様なサービスが提供されていました。



Hamilton Grange - 145th Street Branch Library



Speak with a Social Work Intern at NYPL

Need help finding services? Social work interns can help you find information about services for food, clothing, health, and shelter. They can help you understand what government benefits and programs are available to you, as well as being someone that you can reach out to, just to talk.

Book an in-person 30-minute session Saturday from 12pm-2pm and 345pm-445pm
Book a free 30-minute virtual session Monday and Wednesday from 11am-1pm by emailing hgintern@nyp.org. Please email your name, the best number to call you, and what the session is regarding. You will receive an email back within 1-2 weekdays.

Please note that appointments are not for therapy but for referral services and assistance.



Connect with us: [nyp.org/events](https://www.nyp.org/events)

The New York Public Library
Hamilton Grange Library
503 W. 145th Street
New York, NY 10031
212-926-214

MARCH 2024 | FREE Programs

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
				1 Adult Coloring Social Hour 3-4pm Friday Films: 2-4pm Adult Tech Time: 4pm-5:30pm	2 Crosswords: 11am-3pm AARP Tax Prep: 11am-3pm Adult Tech Time: 3pm-4:30pm
4 Online Short Story Discussions 11am-12pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm Shape Up NYPL: 6pm-6:45pm	5 DIY Landmarks: 12pm-12:45pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	6 English Conversation Class: 3pm-4pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	7 Book Discussions: Chain Gang All-Share: 1pm-4pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	8 Adult Coloring Social Hour 3-4pm Friday Films: 2-4pm Adult Tech Time: 4pm-5:30pm	9 Crosswords: 11am-3pm AARP Tax Prep: 11am-3pm Adult Tech Time: 3pm-4:30pm
11 TechConnect: Microsoft Excel for Beginners: 11am-1pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm Shape Up NYPL: 6pm-6:45pm	12 1-on-1 Computer Help: 10am-1pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	13 English Conversation Class: 3pm-4pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	14 1-on-1 Computer Help: 10am-1pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	15 Adult Coloring Social Hour 3-4pm Friday Films: 2-4pm Adult Tech Time: 4pm-5:30pm	16 Crosswords: 11am-3pm AARP Tax Prep: 11am-3pm Adult Tech Time: 3pm-4:30pm
18 Online Short Story Discussions: 11am-12pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm Shape Up NYPL: 6pm-6:45pm	19 1-on-1 Computer Help: 10am-1pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	20 English Conversation Class: 3pm-4pm Open Book Talk: 4pm-5pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	21 1-on-1 Computer Help: 10am-1pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	22 Adult Coloring Social Hour: 3-4pm Friday Films: 2-4pm Adult Tech Time: 4pm-5:30pm	23 Crosswords: 11am-3pm AARP Tax Prep: 11am-3pm Adult Tech Time: 3pm-4:30pm
25 TechConnect: Get Your Resume Right: 1pm-5pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm Shape Up NYPL: 6pm-6:45pm	26 1-on-1 Computer Help: 10am-1pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	27 English Conversation Class: 3pm-4pm Citizen Preparedness Corps: 5pm-6:45pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	28 1-on-1 Computer Help: 10am-1pm Adult Tech Time: 1pm-4:30pm	29 Adult Coloring Social Hour: 3-4pm Friday Films: 2-4pm Adult Tech Time: 4pm-5:30pm	30 Crosswords: 11am-3pm AARP Tax Prep: 11am-3pm Adult Tech Time: 3pm-4:30pm





出張の様子（ハワイ／志村 研究分担者、劉 客員研究員、RA2名[科研費]）

2月26日から3月1日まで、ハワイで開催された“39th Annual Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity”に参加してきました。志村研究分担者を除く3人は、国際学会デビューということもあり、緊張でガチガチのスタートでした。学会は、2月27日と28日の2日間で、志村研究分担者は25分間の口頭発表、劉客員研究員はポスター発表を行いました。どちらも分身ロボットOriHimeを活用した新しい働き方や働くことに関する研究です。加えて、パイロット（OriHimeを操作して就労している方を、こう呼びます）の方に、OriHimeを実際に操作してもらうというデモンストレーションも行いました。

27日のポスター発表では、“Getting-Away and Getting-Close: The new working style with avatar robot OriHime”と題して発表を行いました。OriHimeパイロットの方々の新しい働き方やその特徴が、人生への態度といった点にどういった影響を与えたのかを考察しました。OriHimeに興味を持った方が、40～50名近く参加してくれました。値段など、OriHimeに関する質問が多く、研究内容まで踏み込んだ議論はなかなかできなかったのですが、いろいろな人に興味を持っていただき、とても充実した時間となりました。

28日の口頭発表では、“Entering into OriHime: A grounded theory of working as a telepresence robot”と題して発表を行いました。OriHimeに入るという経験を、当事者の具体的な経験に則して報告したものです。30名超の参加があり、発表についても、すでにOriHime研究を進めている他国の研究者から、報告内容が実態を示しているというコメントをいただきました。

28日の発表後は、パイロットの方と一緒に、アラモアナショッピングセンターやその周辺などを散歩して楽しみました。大変でしたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。



発行：東洋大学福祉社会開発研究センター

◆ 〒112-8606

東京都文京区白山5-28-20

◆ E-mail : cdws@toyo.jp

◆ TEL : 03-3945-7504